

北太平洋のアカイカ漁に期待

晴天の中、時折り吹く風が心地よい 5 月 8 日、石川県漁業協同組合小木支所所属の中型イカ釣り漁船「第 88 興洋丸」と「第 31 永宝丸」「第 86 永宝丸」が、家族や知人、漁業実習生仲間の見送りを受け、北太平洋東沖でのアカイカ漁に向けて、石川県鳳珠郡能登町の小木港を出港した。

近年、日本海でのスルメイカ漁は、海水温の上昇や海況変化の影響などで、不漁が続き、去年は過去最低の水揚げを記録した。今季は 2 社 2 隻がイカ釣り事業から撤退するなど、国内有数のイカの水揚げを誇った小木地区の中型イカ釣り船も 7 隻となった。

出漁にあたって船主や漁業関係者はアカイカ仕様のための艀装や燃料油などのかさむ経費に、不安を払拭できずにいる状況にあるが、スルメイカ不漁の巻き返しを図るべく重要な位置付けとし、日本から 3000～5000 キロ離れた漁場で活路を見出そうとしている。

5 月 5 日には「第 58 金剛丸」「第 68 栄成丸」が出漁した。小木地区の残る 2 隻は 6 月から日本海へ出漁する。

漁業協同組合小木支所の山下久弥運営委員長（第 58 金剛丸船主）は、「北太平洋のアカイカ豊漁への期待はもちろんのこと、何よりも乗組員の健康を第一とし、事故のない安全操業を願っている」と出漁にあたって激励した。

※アカイカ=ムラサキイカ

アカイカ=和名

別名でムラサキイカという

「海員だより」